

新現役、企業、金融機関が対等の立場で、企業課題に真摯に向き合い、気づき合う新現役交流会

全国信用協同組合連合会

2023年度第一回(東京開催)しんくみ新現役交流会が9月14日に全国信用組合会館(京橋)で開催されました。全国から8信用組合(釧路信組、福島県商工信組、群馬県信組、全東栄信組、共立信組、第一勧業信組、新潟県信組、長野県信組)、11企業が参加されました。リアル面談が6企業、オンライン面談が5企業

のハイブリッド型で、新現役44人を迎えて延べ65回の面談が行われました。

コロナによる生活様式の変化で事業の再構築を迫られ、新たな商品、販路の開拓を具体的にどのように進めればよいかという課題を抱える企業が多く、事前ヒヤリングでも「コンサルでなく課題解決に向けた具体論が欲しい」という声が聞かれました。



SKS保田代表理事の挨拶



開会の挨拶をされる
全信組連)信用組合部長 山口 潤 氏

オンラインによる在宅勤務の進展で食堂用などのオフィス需要が激減して苦慮しておられたお茶の販売・卸売業の社長は、一日のうちにそれぞれの新現役の実体験に裏打ちされた多様な観点から「マーケティングの基本」「越境ECによる海外展開」「企業理念を明確にした事業展開（ブランディング）」「茶店の支援実績に基づく事業展開」などの提案を受け、「一日でこんなに勉強になったことはない。有難い。視野が広がった。」と感激しておられました。

どの面談でも社長の顔が輝くのは、新現役から実務経験に基づいて具体的な提案を受けた時です。「企業の実態に合わせて実行可能な支援ができる」ことが新現役交流会の最大の特徴だと思えます。

新現役のみなさまからは、交流会に参加する目的は、「真正面から課題に取り組んでいる社長を支援したい」「新しいことにチャレンジする企業を応援したい。」「中小企業の現場を直接体験できる良い機会になる」などのお話を伺いました。また、「交流会を通じての民々契約はコンサル価格としては安いかもしれないが、社長さんと一緒に会社を見直したり、新しいことに挑戦



対面での面談



オンラインでの面談

聴けるのは経営者にとって有益な一日になる」「金融機関が同席されるのは社長にとって心強く、支店長の伴走力が面談の質に大きく影響する」と述べられました。また12月14日に初めて福岡で開催されるしんくみ新現役交流会を控えている九州経済産業局からは「一言でいうと本当によい支援策ですね。期待が膨らみます。」との感想でした。

支援する新現役、支援される企業、コーディネートする金融機関の三者が対等な立場で本音で語り合い、ともに気づき、学び合い、成長していく姿がどのブースでも見られました。まさに中小企業庁が推進する「伴走支援」が見える形になって展開されていると思いました。

したりしていくのは本当に楽しい。」といった「働き甲斐」のお話も印象的でした。支援の場に同席される支店長については「ファシリテーション能力が高いと、成果が上がるスピードも成果の度合いも高くなる。」とその役割の重要性を指摘いただきました。

今回は関東経済産業局地域経済部社会・人材政策課、九州経済産業局地域経済部地域経済課から視察に来られ、ブースに入って面談のやり取りを聞いたり、参加者に感想を熱心に聞かれたりされていました。関東経済産業局のお二人は「新現役の方はものすごく準備されて面談に臨まれており、質の高い提案を幾つも